

# 第24回〈ケア〉を考える会-岡山

■日時 **2016年4月17日(日) 14:00~16:30**

■会場 **川崎医療福祉大学 本館(西ウイング) 3階 3101 教室**  
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/access/index.php/> **〈今回だけ会場が異なります〉**

※建物の1階(防災センター)から備え付けのスリッパに履き替えてお上がり下さい。  
駐車場は、福祉大学の職員・学生駐車場(病院とは道をはさんで北側)をご利用ください(1時間100円)。

■会費：無料 どなたでも参加できます。お気軽にご参加ください。

■テーマ 「**〈死〉の臨床とユーモア**」

**鷺田清一・徳永進 著「ケアの宛先」(雲母書房)**

**P.139~P.189 をもとに、話し合います。**



「ケアの宛先」/ノート ③ ……「ケアを語る流儀と作法」(第23回時のノートです)

▼正面から向き合って話すより、横に座って同じ方向を向いて話す……

**徳永** 患者さんの話を聞く時、(……)ソファにいっしょに腰掛けて、同じ方向を見ながら話した方が、医者と患者という役割を離れられるし、人間同士として、魂というような次元のことを含めて、広い視野で話し合える気がします。

**鷺田** いろんな面談のときも、正面から向き合って話すより、90度横に移動した位置で話すといいて言われますよね。

**徳永** 90度か、横座りもいいですね。飲み屋のカウンターですね。(101頁)

▼いい介護施設の見分け方…… **鷺田** 私の教え子で哲学に絶望して大学を中退した知人がいます。(……)。今は、阪大で教師をやっています。(……)。「いい介護施設って、どこで見分けたらええの？」って彼に聞いてみました。そしたら、迷いなしに「大きい声がせえへん介護施設がいい」って教えてくれました。要するに、スタッフが「だれだれさーん、ちょっと手伝って！」とか、「だれだれさん、だめよ、そっちに行ったら！」というように、大きい声がしている介護施設はだめだって言うんです。(……)。彼もうまくは説明できないんですけど、(……)。空気とか気配みたいなものを、彼は「大きな声がしない」というふうに表現してくれたと思うんです。(111~112頁)

▼フィールドワーカーの矜持…… **徳永** 私がなんで臨床を続けているかということ、臨床場面で起こったことを記録することに意味があると考えているからです。何月何日、こういうことがありましたということ、許される範囲ぎりぎりのところで書いていきたい。そうやって、これまで出会った患者さんのことを、書かせてもらった。自分の仕事はフィールドワーカーだと思っっているんです。(135頁)

## ■呼びかけ人

大賀由花(赤磐医師会病院/透析療法指導看護師)、河合清志(社会福祉士)、小林真美、清水昭雄(管理栄養士)、田中順子(川崎医療福祉大学リハビリテーション学科/作業療法士)、林道也(社会福祉士)、平松邦夫(社会福祉士)、松川絵里(カフェフィロ代表/大阪大学 CSCD 特任研究員)

## ■参加申し込み・問い合わせ

[884michiya@gmail.com](mailto:884michiya@gmail.com) 090-5366-1497(林)

※ ホームページもご覧ください ⇒ <http://okayama-care.jimdo.com/>



## 「〈ケア〉を考える会-岡山」とは……

▼岡山(倉敷)で、〈ケア〉について学び考えています。

〈ケア〉といえば、「看護」「介護」「支援」「世話」などが頭に浮かびます。超高齢社会を生きる私たちにとって、切実な課題の一つです。そして、〈ケア〉は、もっと広く捉えることもできます。たとえば広井良典氏は、ケアを「人と人との間の『関係性』」という意味に理解してみたい」と述べ、さらに、個人がコミュニティや自然などとなつがっていくような方向でもケアを考えます。「『ケアの哲学』とでもいうようなものが必要」とも言っています。また、鷺田清一氏は「臨床哲学」の重要テーマの一つに「ケア論」を置き、「ケア」の奥深さをさまざまに説いています。それに、「死生観」、「生」と「死」について、リビングウィル、終末期医療も、〈ケア〉を抜きには考えられません。

この会では、〈ケア〉について、身近なところから理念的なものまで、そして、狭い意味から広い意味まで、幅広く深く考えていきます。

▼この会の参加者は、医療・看護・介護・福祉・教育などの現場、または地域や家庭などで〈ケア〉に関わっている方、大学や学校で〈ケア〉の教育・研究に携わる方や学んでいる方、さらに、その他、〈ケア〉に関心や関係のある方などです。〈ケア〉に関わる人たちが学び交流することで、明日からの力を得る〈場〉となることを願います。この会は参加者の「つながり」を大切にします。